

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図】

【地震一口メモ】

「令和 8 年熊本地震及び奈良県の活断層」について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため 1989 年 1 月より月 1 回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台

2026 年 8 月

本誌の過去分は奈良地方気象台ホームページでご覧いただけます。

URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.html>

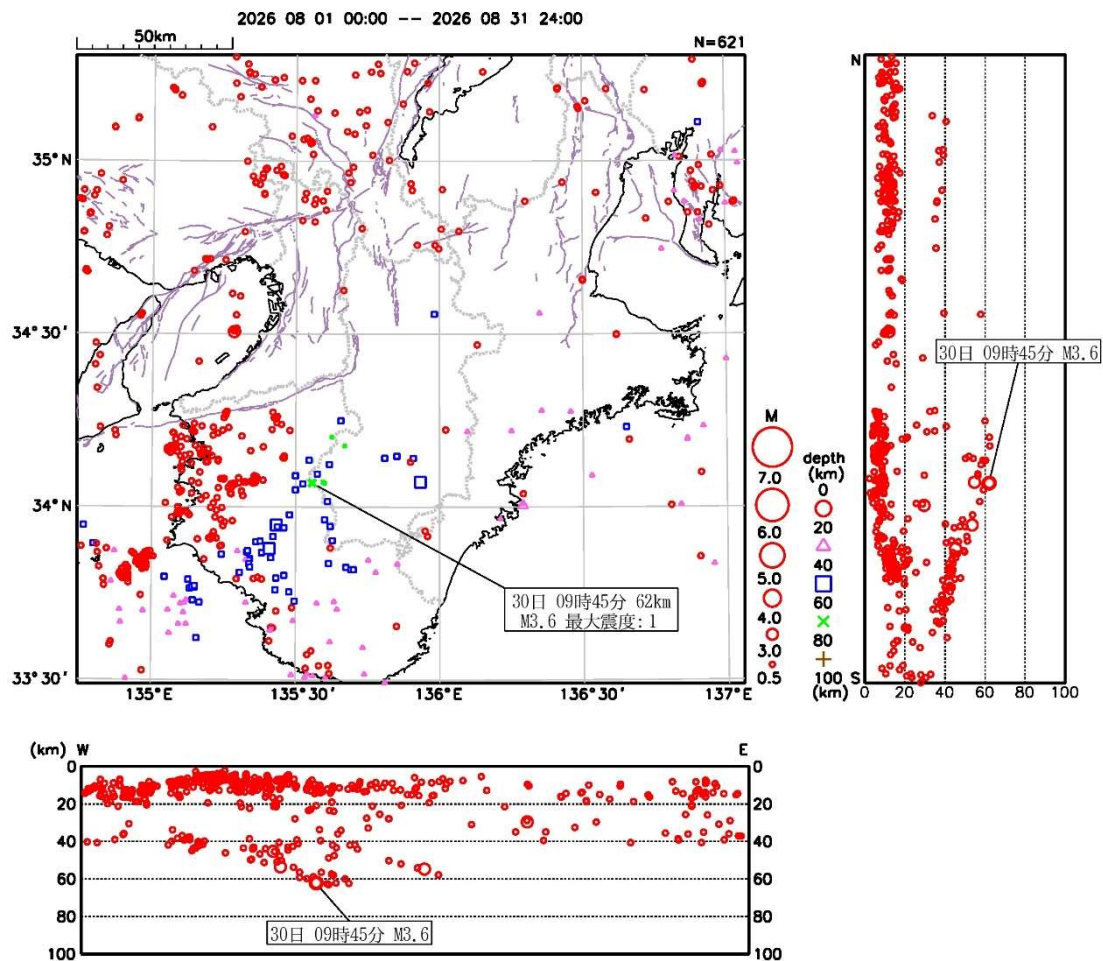


【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

震央分布図（左上）は、地震が発生した場所を地図上に表し、記号の大きさと地震の規模（マグニチュード、Mとも表記）と記号の種類で震源の深さを表しています。また、紫色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層帯を表しています。南北方向の断面図（右上）と、東西方向の断面図（左下）で地震の垂直分布を表し、これらにより地震の発生状況と規模が把握しやすくなります。

図中の吹き出しは、奈良県内で震度1以上を観測した地震を示しており、地震の発生日時や規模などを記載しています。なお、最大震度は奈良県内とは限りません。



【奈良県地震概況】

10 日 00 時 48 分 滋賀県北部の地震（深さ 16km、M4.3；震央分布図地図範囲外）により、奈良県内では、奈良市・大和郡山市・桜井市・生駒市・三郷町・高取町・広陵町で震度 1 を観測しました。

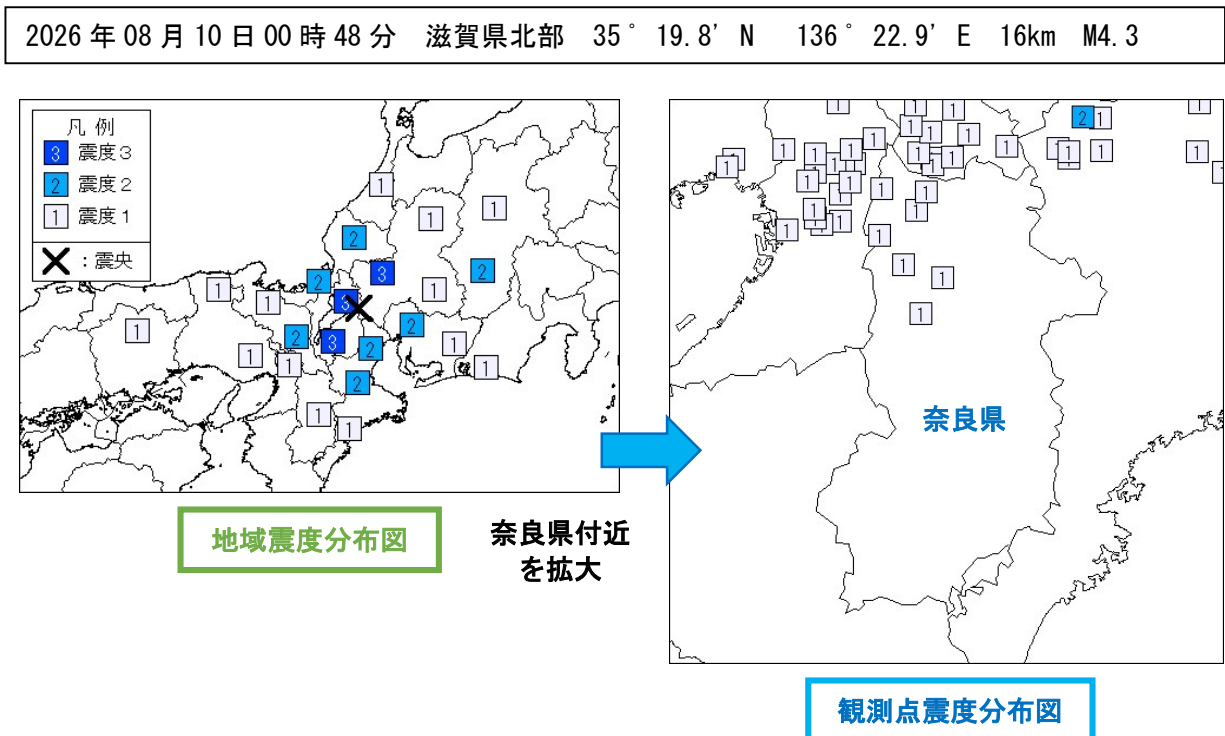
30 日 09 時 45 分 奈良県の地震（深さ 62km、M3.6）により、奈良県内では、桜井市・宇陀市・高取町・御杖村・下北山村で震度 1 を観測しました。

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

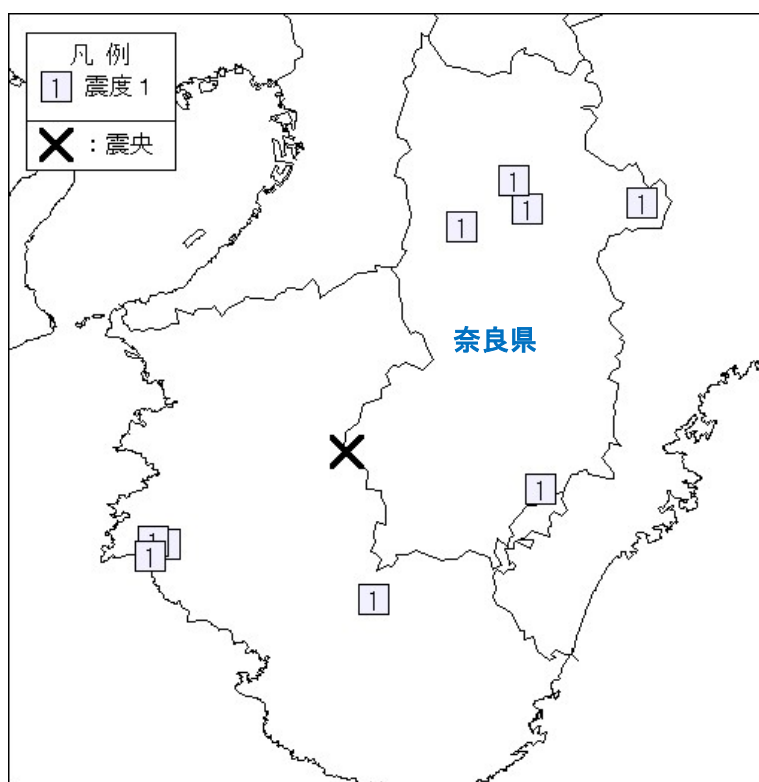
震源時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	M
各地の震度（奈良県内のみ記載）					
2026 年 08 月 10 日 00 時 48 分	滋賀県北部	35° 19.8' N	136° 22.9' E	16km	M4.3
震度 1：奈良市二条大路南＊、大和郡山市北郡山町＊、桜井市栗殿＊、生駒市東新町＊ 三郷町勢野西＊、高取町観覚寺＊、広陵町南郷＊					
2026 年 08 月 30 日 09 時 45 分	奈良県	34° 04.1' N	135° 33.4' E	62km	M3.6
震度 1：桜井市初瀬、御杖村菅野＊、高取町観覚寺＊、下北山村寺垣内＊ 宇陀市大宇陀迫間＊					

＊印は地方公共団体等の震度観測点です

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布】



2026 年 08 月 30 日 09 時 45 分 奈良県 34° 04.1' N 135° 33.4' E 62km M3.6



観測点震度分布図

【地震一口メモ】

「令和8年熊本地震及び奈良県の活断層」について

7月28日16時27分に熊本県熊本地方の深さ16kmでM7.1の地震が発生し、熊本県宇城市（うきし）と、氷川町（ひかわちょう）で最大震度7を観測（図1）したほか、九州地方から中部地方にかけて震度6強～1を観測しました。気象庁は、この地震及びそれ以降に発生した一連の地震活動について、「令和8年熊本地震」と名称を定めました。

2026年7月28日以降の地震活動は北東－南西に延びる50km程度の範囲に広がっており、日奈久断層帯の3つの区間（高野－白旗区間、日奈久区間、八代海区間）のうち、主に（高野－白旗区間及び日奈久区間）に沿って分布しています（図2）。

この地震以降、同日16時29分にM4.8の地震（最大震度5弱）、17時08分にM6.1の地震（最大震度5弱）、19時03分にM4.2の地震（最大震度5弱）、7月29日22時19分にM5.8の地震（最大震度5弱）、8月1日21時47分にM4.7の地震（最大震度5弱）が発生するなど活発な地震活動が継続しており、8月31日24時00分までに震度1以上を観測した地震が735回（震度7：1回、震度5弱：5回、震度4：23回、震度3：71回、震度2：175回、震度1：460回）※1発生しています。

（※1）：掲載している地震回数は、後日の調査で変更となることがあります。

地震調査委員会は、日奈久断層帯の高野－白旗区間及び日奈久区間について、活動時にそれぞれM6.8程度、M7.5程度の地震が発生する可能性があり、30年以内の地震発生確率はそれぞれXランク（不明）、S*ランク（高い）※2と評価していました。

また、日奈久断層帯を含む九州南部の区域では、M6.8以上の地震の30年以内の発生確率は7-18%と評価していました。

（※2）：活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1～3%未満を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明（過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難）を「Xランク」と表記しています。地震後経過率（※3）が0.7以上である活断層については、ランクに「*」を付記しています。Zランクでも、活断層が存在すること自体、当該地域で大きな地震が発生する可能性を示します。

（※3）：最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となります。

奈良県にも、地震調査委員会が、30年以内の地震発生確率を評価している活断層があります。例えば、京都盆地－奈良盆地断層帯南部区間について、活動時にはM7.4程度の地震が発生する可能性があり、30年以内の地震発生確率はS*ランク（高い）と評価しています（図3）。

また、奈良県の概ね吉野川以北の領域を含む、近畿三角帯区域では、M6.8以上の地震の発生確率は40-60%、奈良県の概ね吉野川以南の領域を含む、紀伊半島区域では、M6.8以上の地震の発生確率は7%、と評価されています（図4）。

近畿地方や奈良県でも規模の大きな地震の発生する可能性があります。地震は発生してから大きく揺れるまでにほとんど時間がありません。地震に対する事前の備えをお願いします。

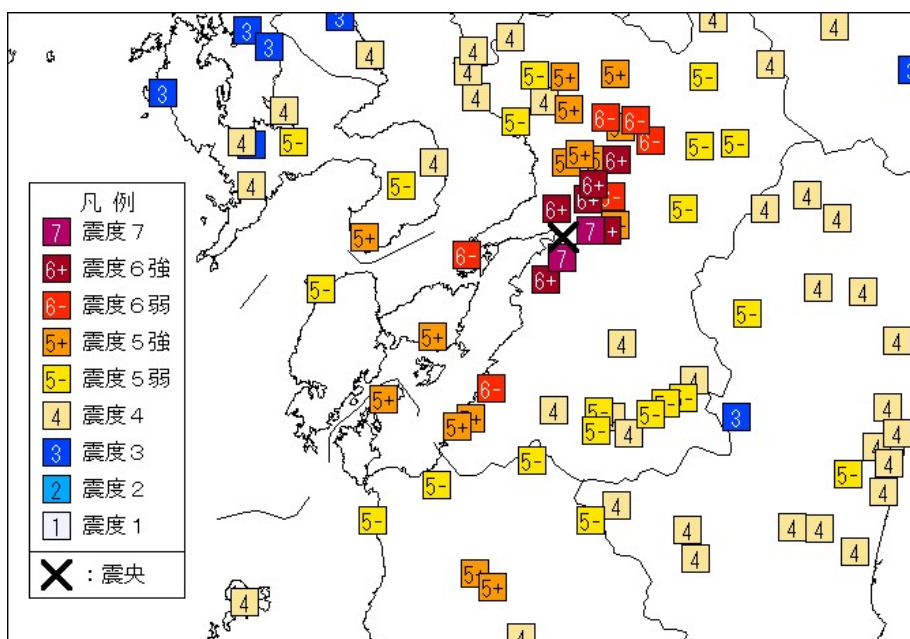


図1 令和8年熊本地震の震度分布図（熊本県周辺を拡大した市町村震度分布図）

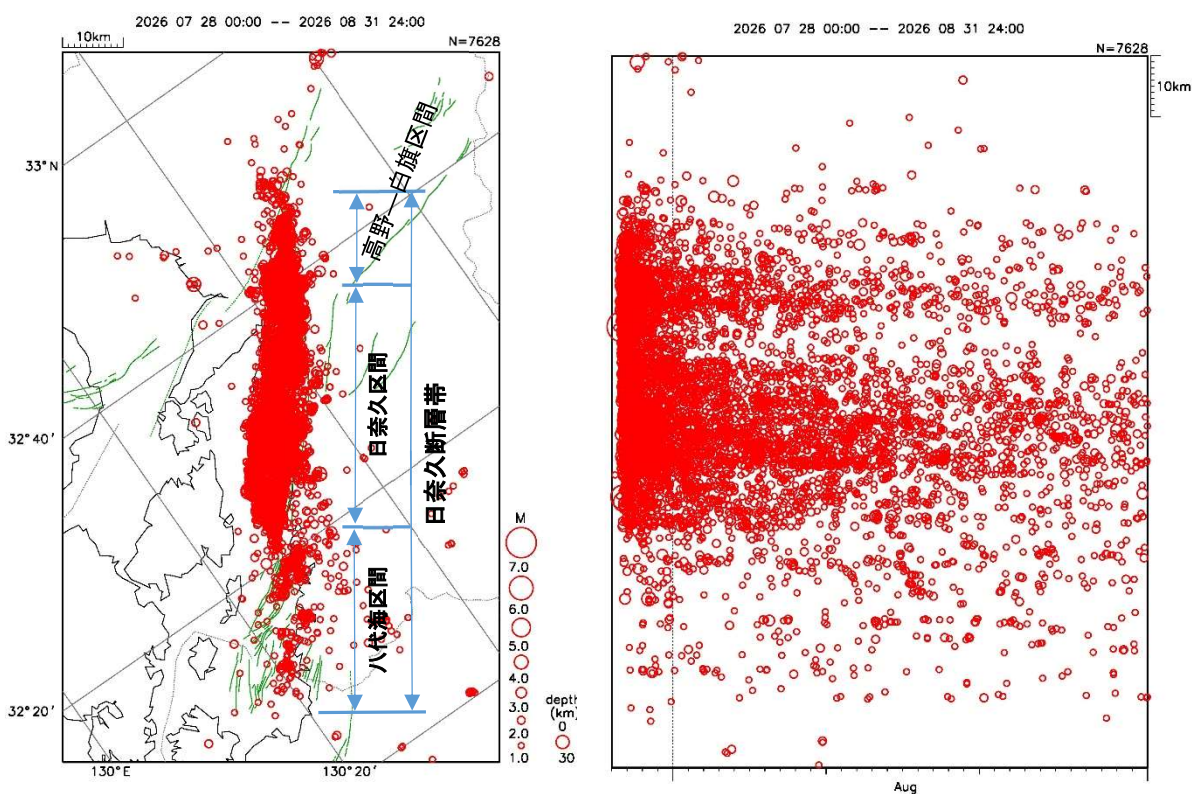


図2（左図）震央分布図および日奈久断層帯とその区間（2026年7月28日～8月31日、深さ0～30km、 $M \geq 1.0$ ）

（右図）左図内で発生した地震の時空間分布図

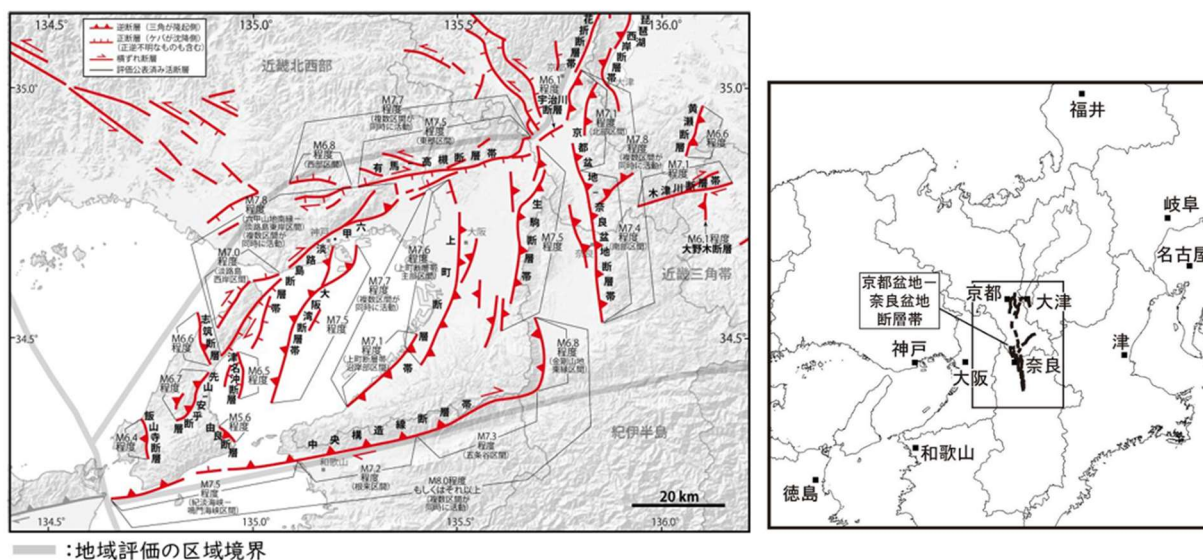


図3 (左図) 近畿地域の活断層「近畿三角帯の西部」
近畿地域の活断層の長期評価 (第一版) の概要
令和8年8月28日公表 地震調査研究推進本部事務局

(右図) 京都盆地—奈良盆地断層帯の概略位置図
近畿地域の活断層の長期評価 付録6-19
京都盆地—奈良盆地断層帯の長期評価 (一部改訂)
令和8年8月28日公表 地震調査研究推進本部事務局

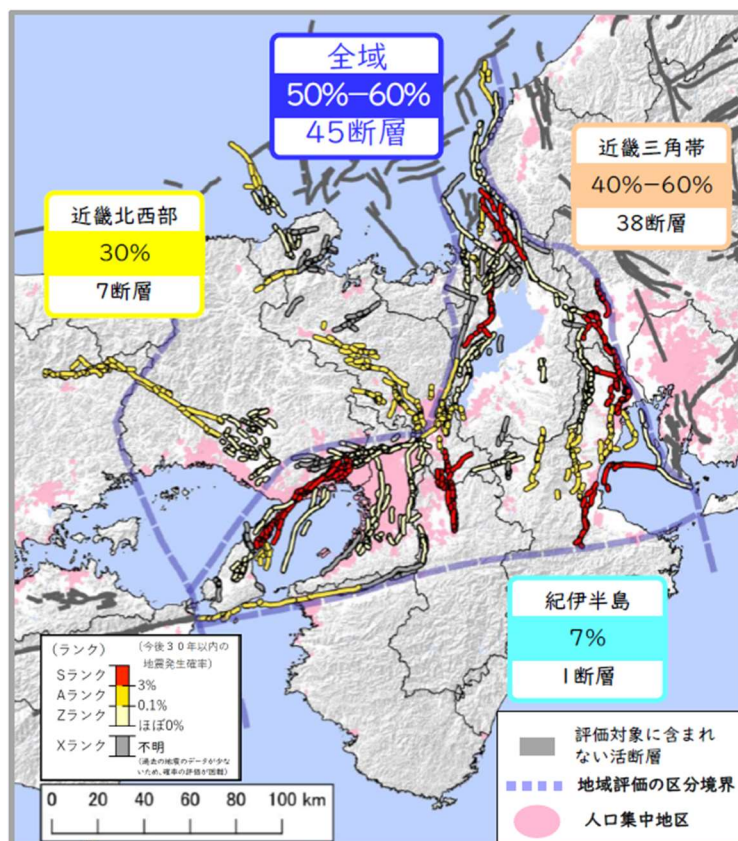


図4 近畿地域の活断層で発生する地震の長期評価 | 結果
地域内でM6.8以上の地震が30年以内に発生する確率
近畿地域の活断層の長期評価 (第一版) の概要
令和8年8月28日 地震調査研究推進本部事務局